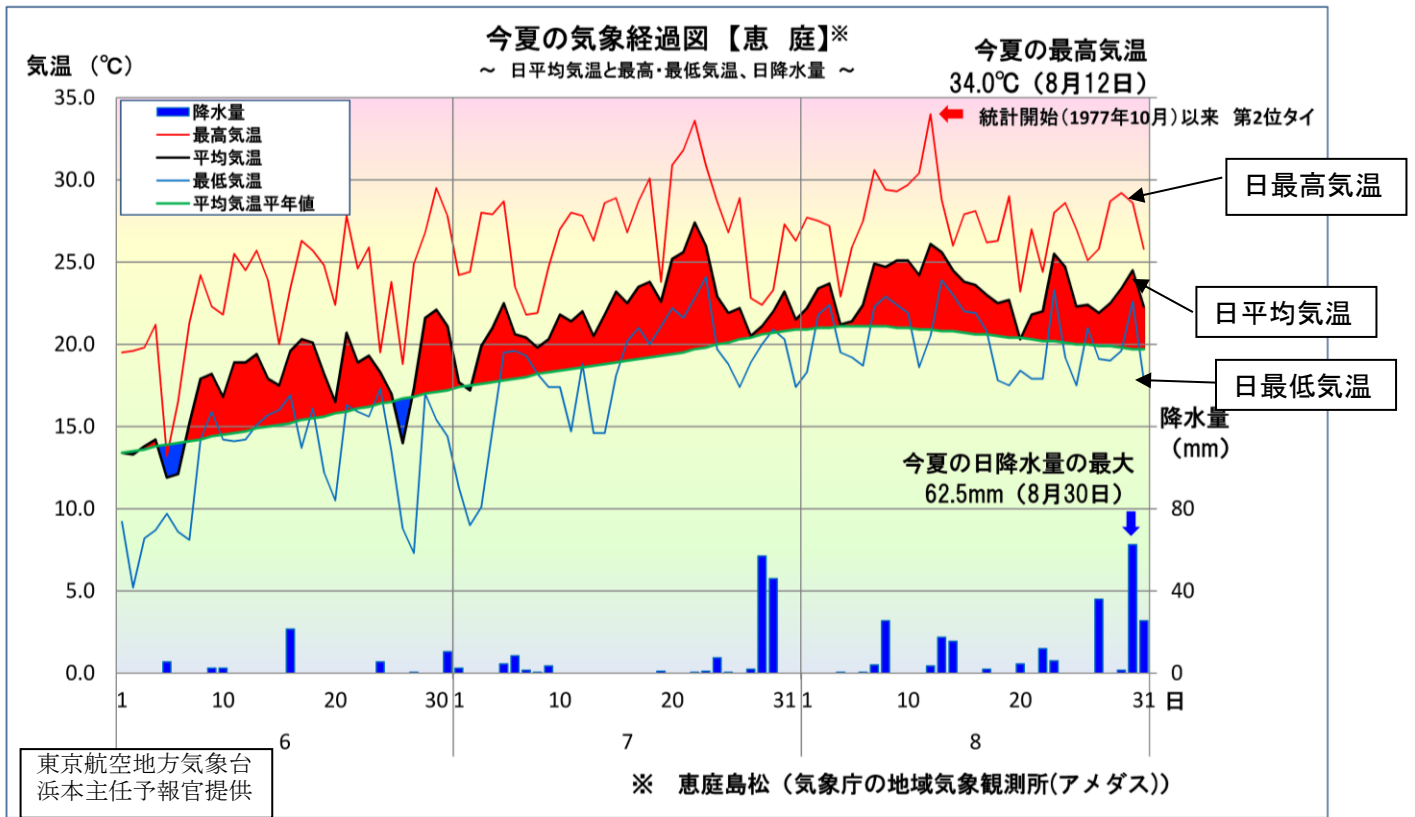


季節のまとめ

【今年の夏を振り返って】（令和6年6月～令和6年8月）

防災士 清水 為一



【概況】

今年の夏は、グラフで見られるように、北海道は本州方面を覆う亜熱帯の気団に支配されることが多く気温が非常に高く、むし暑い夏になりました。

月別経過

6月

上旬は千島近海や日本の東に位置する高気圧の圏内になることが多く比較的好く晴れた日が多かった。中旬は、低気圧が北海道の北を通ることが多かったため影響は受けにくかった。また、低気圧に向かう南からの暖かい空気が流れ込みやすくなったため、気温はかなり高かった。下旬は北海道付近を低下圧が通過することが多かったため、曇りや雨の降る日が多かった。気温は引き続きかなり高く経過した。

*月平均気温	17.5度	6月として	<u>高い方の第1位</u>
*日最高気温	29.5度 (29日)	〃	高い方の第10位
*日最低気温	17.3度 (24日)	〃	高い方の第10位
*10分間降水量	3.5mm (16日)	〃	多い方の第7位

7月

上旬は、北海道付近を低気圧が通過することが多く、低気圧に吹き込む南からの暖かい空気により気温は高かった。中旬は、北海道の東にある高気圧に覆われ晴れる日が多く気温も高かった。下旬は、低気圧や前線の影響を受けやすく曇りや雨の日が多く、特に28日から29日には低気圧の影

響で大雨となった。気温は引き続きかなり高く経過した、

- *月平均気温 22.0度 7月として高い方の第1位
- *日最低気温 24.1度 (23日) // 高い方の第1位
- *日最高気温 33.6度 (22日) // 高い方の第2位
- *月降水量 136.5ミリ // 多い方の第9位
- *最大10分間降水量 4.5ミリ (24日) // 多い方の第10位

8月

上旬は、低気圧や前線の影響を受けやすかったため、曇りや雨の日が多かった。

中旬の11日から15日は台風第5号が南から近づき、熱帯低気圧に変わって北海道を通過したが、その後は北海道の北に位置する高気圧から冷涼な空気の影響を受けやすかった。

下旬は、低気圧や前線の影響を受けやすかったため曇りや雨の日が多かった。特に30日から31日にかけては台風第10号からの湿った空気が前線を刺激し、2日間で90ミリの大雨となった。

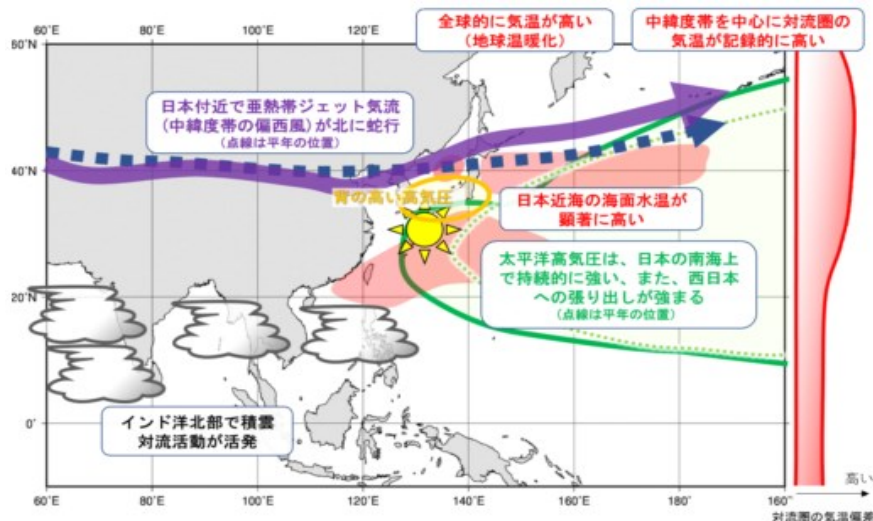
- *月平均気温 23.3度 8月として高い方の第2位
- *日最高気温 34.0度 // 高い方の第2位
- *日最低気温 23.9度 (13日) // 高い方の第6位
- *日最大10分間降水量 12.0ミリ (8日) // 多い方の第7位

まとめ

今年の夏は、真夏日（日最高気温が30度以上）は8日と昨年夏の20日に比べると少なくなりました。しかし、日平均気温が高く稀に見る暑い夏になりました。全国的にも「猛暑日(日最高気温が35度以上)」が続出し、熱中症の患者がここ数年で最多となったとのこと。

この原因として、次のようなことが考えられます。

- 1, 日本付近で亜熱帯ジェット気流が持続的に北に蛇行し、対流圏上層までのびる背の高い高気圧に覆われ続けた。
- 2, 日本の南で太平洋高気圧が持続的に強く、日本列島に張り出した。その要因としてインド洋北部で積雲対流活動が活発であった影響がある。
- 3, 高気圧圏内で日射が強まったほか、下降気流の影響で気温が上昇した。
- 4, 日本近海の海面水温が顕著に高かった。
- 5, 長期的な地球温暖化に加え春まで続いたエルニーニョ現象等の影響で気温が顕著に高かった。



顕著な高温をもたらした大規模な大気の流れの模式図
(異常気象分析検討会による)